

石碑に込められた思い

災害に関する石碑には災害時の様子や教訓などが刻まれています。石碑の前に立つと、後世の人に伝えたいという先人の思いが感じられます。昭和 51 年の台風 17 号による山津波で被害を受けた徳島県那賀町と香川県小豆島町の石碑をご紹介します。

■平地区の慰霊碑（徳島県那賀町）

昭和 51 年（1976）9 月、台風 17 号が鹿児島島の南西海上に停滞し、木頭村（現那賀町）では 8 日から 6 日間大雨が降り続き、総雨量 2,782 ミリを記録しました。台風が去った直後の 13 日午後 1 時 30 分頃、突如西ノ谷山が崩壊し、膨大な量の土石流が北川平地区の大半を埋め尽くしました。このため、建設作業員宿舎が流されるなどして、死者 6 人、重傷者 1 人の被害のほか、家屋の全壊 2 戸、半壊 1 戸、山林、耕地、林道、公共施設等に被害が及びました。一周忌を迎えた昭和 52 年 9 月に、犠牲者の冥福を祈るために災害の記録や犠牲者の名前を刻んだ石碑が平地区に建立されました。＜平地区の慰霊碑、木頭村誌編纂委員会編「木頭村誌続編」2006 年、平成 11 年度北川小学校卒業生編『ふるさと』折宇・北川」2000 年など＞



■西城の大水害復興記念碑（香川県小豆島町）

昭和 51 年（1976）9 月の台風 17 号により、8 日～13 日の降雨量は内海町（現小豆島町）四望頂で 1,376 ミリに達しました。西城地区でも 11 日に 819 ミリの集中豪雨となって、岩石、樹木を伴った山津波が起こり、ほとんどの家屋が流出、埋没、床上浸水をこうむりました。水害後、国・県・町の復興事業が建設業者の協力、地区住民の奮起によって行われ、3 箇年で復興することができました。これを記念して、昭和 54 年 9 月に大水害復興記念碑が建立されました。碑には「禍福無門」と刻まれています。災いや幸せは人が呼び寄せるものであって、禍福が入ってくる決まった門があるわけではないという意味です。＜西城の大水害復興記念碑、内海町教育委員会編「内海町の碑文集」1987 年、内海町災害の記録編集委員会編「昭和 51 年 9 月台風 17 号による集中豪雨 1,400 ミリの爪跡」1977 年など＞

